

## 体育（理論）：“「コツ」を考えよう”

対象 2 年 蘭 組

授業者 古 山 泉

### I. 授業目的

生徒一人ひとりが考える（感じる）コツ（らしきもの）を引き出し、自分なりの感覚を肯定的にとらえさせるとともに、何事に対しても「どうすればいいか？」という問題意識をもって取り組む精神を育む。

### II. 授業概要

1. 授業目的の理解

2. VTRの視聴－「校内で集めたコツ情報」

（担任教諭のテニスのサーブ～バスケ部員のドリブル～バレー部員のパス

～家庭科教諭の包丁捌き～2年蘭組生徒のバランスボード）

3. 「コツ」情報を出し合う

自分なりのとらえ方を書き留める～4人グループでまとめて黒板に掲示～

新発見・再確認・納得できたものを指摘する（自由発言）

テーマ：a. ソフトボールを遠く投げるコツ

b.       "       を正確に投げるコツ（→一部割愛）

c.       "       をキャッチするコツ（→完全割愛）

4. まとめと感想記入

### III. 研究協議

以下の事項について活発な意見および情報交換が行われた。

○生徒から提出されたコツ情報について

○日本体育協会の調査プロジェクトに関する情報の紹介

○クラシックバレエにおけるコツの指導について

○学習形態について

- 指導のあり方について
- 本授業を今後どう生かすか
- 体育授業の課題について
- 教師のあり方について

#### IV. 授業者の反省

本時の目的は生徒たち一人一人の感覚的なものを言葉に表し、自他の感覚を肯定的に捉えることであったが、その目的は達せられたと思う。しかし、用意したテーマの後半は消化できず、時間切れとなったことは残念である。企画段階で、一般的な授業形態として「50分1コマ」にこだわったため無理が生じた。公開授業として完結すべきか、平素の1コマとして自然にうち切るか迷うところであった。

企画までの経緯や生徒たちから出された具体的な情報など本時に関する詳細は別稿で掲載する。